

研究・調査報告書

| | | |
|---|-------------|--------|
| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
| A-169 | A-83C | 22-056 |
| 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之 | | |
| 題名 (原題/訳) | | |
| Factors associated with public awareness of the relationship between alcohol use and breast cancer risk 飲酒と乳がんリスクとの関係についての認識に関連する要因について | | |
| 執筆者 | | |
| Anne Doyle, Claire O' Dwyer, Deirdre Mongan, Seán R. Millar ¹ , Brian Galvin. | | |
| 掲載誌 | | |
| BMC Public Health. 2023 Mar 28;23(1):577. doi: 10.1186/s12889-023-15455-8. | | |
| キーワード | PMID | |
| アルコール、がん、一般集団、意識向上 | 36978036 | |
| 要 旨 | | |
| <p>目的: アルコールの発がん作用、特に飲酒と乳がん発症リスクとの関連について、一般の認識は低い。乳がんはアイルランドで3番目に多いがんであり、アルコール摂取量は依然として多いことから、飲酒と乳がん発症リスクについての認識に関連する要因を検討することを目的とした。</p> <p>方法: アイルランドの15歳以上成人を対象とした全国横断調査(The Healthy Ireland Survey)の第2調査のデータ(7,498人)を用い、一般人口を最大限に代表するよう、性別・年齢・学歴・地域・就労状況によって重み付けした。肝臓病、膵炎、胃潰瘍、高血圧、皮膚がん、大腸がん、乳がんについて、1週間に推奨される標準的な飲酒量を超えた飲酒により発症リスクが高まると思うものを選択してもらった。アルコール摂取量は、飲酒経験があると回答した者に対し、飲酒したことのある酒類、過去12か月間の摂取頻度を尋ね、WHOのアルコール使用障害識別テスト(AUDIT-C)に基づき5点未満を低リスク飲酒者、5点以上を危険飲酒者とした。基本属性および飲酒と乳がんの関連についての知識と要因についてカイ2乗検定を行い、有意な関連が認められた要因について、リスク認識のオッズ比(OR)と95%信頼区間(CI)を、ロジスティック回帰分析を用いて算出した。</p> <p>結果: 乳がんに関連する飲酒のリスクに対する認知度は低く、関係を正しく認識している者は21%であった。ロジスティック回帰分析の結果、性別(女性)[OR:1.99, 95%CI:1.72-2.32, p<0.001]、高学歴[OR:1.99, 95%CI:1.60-2.47, p<0.001]は、飲酒と乳がんリスクの関連についての認識が約2倍と最も高く、中年(45~54歳)[OR:1.71, 95%CI:1.10-2.66, p=0.017]においても高い傾向が認められた。</p> <p>結論: 乳がんはアイルランドの女性において多い疾患であり、特に飲酒をする女性には、乳がんリスクとの関連を認識してもらうことが重要である。飲酒の健康リスクを強調し、教育レベルの低い人々への公衆衛生メッセージが必要である。</p> | | |